

## 4. 職業訓練におけるOHPの活用

### (1) 実習・作業のオリエンテーションでの利用

所定の作業を実施させるに先立ち、特に受講者が成人である場合は、その意義や概要を十分に納得させる必要があります。その意味から、全員にその説明を行ういわゆるオリエンテーションにおけるOHPの役割は重要です。OHPは、機能的にはそのステージが20cm四方程度の広さで、文字を黒板のように数多く書きこむことができませんから、作業手順のポイントや大まかな流れをキーワード的あるいはフローチャートの的に明示するのに都合のよい提示装置であるわけです。

また、実習の途中に、それまでの個別作業から再び一斉指導を行ったり、注意事項を確認する際にOHPを用いると、かなり遠方の受講者にも居ながらにして理解させることが比較的容易にできます。

### (2) 図表を用いての説明

技術を扱う授業では、関連の物理現象の説明を伴うことが多く、そのために、図とか表を多く用います。特に細かい図を書くとなると、黒板では時間がかかるし丁寧な作図も困難です。一方、トラペンでは、普通紙とほぼ同じ要領で適宜定規を用いて図などが描けますから、体裁もよくまた色も豊富に選択することができます。また、フローチャートを用いて何らかの手順を説明する際には、現説明箇所を指示棒で明確に示したり、不要な部分をステージ上で紙でおおうなどして説明の了解性を高めるといった工夫も考えられます。

### (3) 定型的トラペンの使用

何らかの電気機械類の構造を説明する際、指導方法やポイントのおき方は、受講者によって同じとは限りません。しかし、そこで提示する構造図そのものが同一であれば、どの授業でも便宜的にそれを用いることができます。かなり複雑な図面や多色性に特色をもつ図は、制作にそれなりの時間を要しますが、汎用性のある図であれば、一度制作すれば保管により有効に活用されます。

あるいは、既存の図面をそのまま提示しようとするときは、適当な大きさに拡大・縮小してトラペンを制作し、さらに色を塗るなど適当に修正を行えばよいわけです。

### (4) 作業の進行状況の説明

機械の組立てなどを行う場合、実習グループによって（あるいは個人個人によって）作業の進行速度に差異を生じるのが普通です。もし、各グループに他のグループの進行状況を示して時間調整を示唆するなどの場合は、OHPを点灯させたままにしておき、指導者が進行速度をチェックしてトラペソ内の進行状況を逐次修正するなどすれば、進捗調整に役立つでしょう。